

静岡市企画局アセットマネジメント推進課
新清水庁舎建設検討委員会の皆さま

宗田好史
京都府立大学副学長
環境デザイン学科教授

明日の第1回新清水庁舎建設検討委員会を欠席しますので、以下の通り意見を申し上げます。

本格的な人口減少が進む中、現在多くの自治体で、新たな施設整備には極めて慎重で、丁寧な議論が続けられています。減少することは分かっていますが、的確な人口予測は立てられません。都市計画、都市計画マスタープランを見直し、立地適正化計画を立てた上で、無駄のない規模、合理的な配置、安全な立地を慎重に見極めます。私は静岡市の財政状況をよく存じませんが、私が委員を務める関西の多くの自治体の財政は極めて厳しく、無駄な施設、特に無駄に大きな施設を計画すれば、維持管理コストが無駄に膨らみ、将来の財政を苦しめるからです。無駄なコストで救える市民が救えなくなります。

そのため、既存の上位計画があるからといって、唯々諾々と従うだけではなく、日々の点検が不可欠です。常に計画の適正化を図る努力を、多くの自治体で懸命に続けています。立地適正化計画とは、そのために国が新たに用意した仕組みで、コンパクトな市街地を早急を実現するために、公共施設を見直し、市街化区域、都市施設を再検討するものです。

今回お送りいただいた資料には、新庁舎に入る業務内容、部局の概数が記されています。しかし、人口と財政規模の縮小に沿って、行財政改革を進め、部局と職員数を減らす過程を読み取ることができません。首都圏に近い静岡市では、関西とは違い人口が減らないのでしょうか。それとも、合併協議の中で、旧清水市役所の規模を維持するとして約束に縛られ、現在目の前にある危機を無視しようというのでしょうか。子供やお年寄りに犠牲を払ってでも約束を守れという市民はいないと思います。

財政の厳しさが増す中で、行政コストの大部分が人件費であり、福祉や医療など多様化する行政サービスのコストが肥大化する中で、行政コストを削減することは至上命題です。平成の大合併で職員定数を削減した効果など、油断をすればすぐ消えてしまいます。一方、電子化が進み窓口を訪れる市民の数は減ります。新庁舎に求められる役割は慎重に検討されたのでしょうか。

厳しい財政状況の中で、多くの予算を割いて、あえて新たな施設を提案する場合は、その結果後回しにされ、予算に計上されなかった事業を一つ一つ検討しなければなりません。乳幼児の医療費は十分支援できているか。保育所は足りているか。全国の小学校に空調が付き、財政の厳しい自治体でも PFI 方式で一斉に整備したのに、この町では子供たちを暑い教室で苦しめていないか。児童数が減った古い小学校でなく、統合され友達が多い新しい学校で恵まれた教育環境を享受しているのか。お年寄りの暮らしに十分配慮し、医療福祉は着々と整備されているのか。買物にご不自由はないのか。適切に公開された行政情報をえて、開かれた透明な意思決定が保障される中で、市民一人一人が正しい現実認識のもとに、誰に我慢をしてもらい、誰を優先して事業化したのかを判断しなければなりません。こんな時代には、場合によってより困った人に順番を譲ろうという考え方が求められます。無意味な過去の約束を守るために、子供やお年寄りを犠牲にしたい市民はいないと思います。

このように現在多くの自治体に取り組んでいる公共施設の検討に加え、今回の新清水庁舎の検討作業では、はるかに慎重になるべき論点があります。防災施設としての性能によって、何人の命が救われ、犠牲をどこまで減らせるかが、一つ一つの意思決定の結果となるからです。新庁舎の建設候補地についても議論が

あったと同っています。病院のことも聞いています。これらの決定の経緯について、より詳しい説明がされると
思います。きわめて重要な責任ある判断がなされた結果、遠くない将来にその成果が救われる人名と失わ
れる人名の数で評価されることになるかもしれません。

同様に、新庁舎の役割も極めて重要です。東日本大震災を通じて、庁舎は地震や津波に耐えることが縦
横であることがよく分かりました。同時に、避難してこられた住民の皆さんが数日間、数週間過ごす安全で最
低限の快適さがある避難所として果たす庁舎の役割についても見てきました。だから、トイレ一つとっても震
災前と震災後では考え方が違います。

また、静岡市は長年にわたって防災計画を立て、具体的な避難計画を市民の皆さんと共有し、市民一人
ひとりが自らの安全を確保する行動がとれるように準備されていると思います。そのため、周辺の住民の皆さん
とよく協議して、慎重にこの避難所としての新庁舎のあり方を検討する必要があります。いざというときに、
その性能を発揮する防災拠点であるためには、日ごろからの市民の皆さんとの協働が必要です。

資料には、防災以外にもまちづくり、経済、商業、歴史等、清水の地域特性を把握した上で求められる新
庁舎の役割を検討すると述べられています。防災は私の専門家ではありませんが、これらの点については関
西の自治体で専門委員を務めています。国際クルーズ船が寄港し、乗船客が清水の街を回遊するようなイ
メージが描かれています。大丈夫でしょうか。かつて、夕張市が観光に過大な期待と、過大な公共投資をし
たために、財政再建団体に陥ったことはよく知られています。その原因は、観光に投資をしても自治体の歳
入が簡単に増えるわけではないことにあります。京都のような最大の観光都市でも、観光税を議論するほど、
歳入増効果は薄いのです。まして、日本人観光客が減り続ける時代にはより慎重になるべきです。LCC の登
場で、日本を訪れる外国人観光客数は、ここ数年で倍増しました。倍以上に増えた都市もあれば、この機会
を逸した街もあります。逸した街は、どうやって挽回しようというのでしょうか。夕張市のような過大な期待に終ら
ないために慎重な議論と綿密な調査が必要です。まして、過大な期待をもとに過大な投資をする愚は犯せ
ません。夕張市では見果てぬ夢の残骸が風雪に晒され、子供たちは去り、高齢の住民の皆さんが不自由を
強いられています。人口減少期のまちづくりの難しさをよく理解した上で議論を進めるべきでしょう。

事業手法とスキームについて様々な方法が提案されています。この種の新しいことに慎重にならざるえな
いほど、失われた 25 年間の経験を我々は積んできました。私の大学の新校舎建設のために、たいへんよく
似た資料を私自身が作ったことがあります。その意味で、このページの裏側に隠れた不都合な真実を掘り下
げながら。市民の皆さんと一緒に考えたいと思っています。

さて、私は明日の委員会を欠席しますので、ご説明を聞かずに、あらかじめいただいた資料だけを見てお
ります。そのため、誤解が多くあるのだらうと思います。だから、この基本構想が時代遅れの誇大妄想に見え
るのは私の間違いであってほしいと思います。静岡の都心部に庁舎がありながら、なぜこれほどの規模の庁
舎が必要なかわかりません。縮小する時代に、あえて二つの庁舎を維持する理由もわかりません。その行
政コストを、我々ではなく、孫子の世代に支払わせる理由もわかりません。私たちは、すでに保険、年金、介
護などで孫子に借金を押し付けています。この上新庁舎の借金で、将来孫子にどんな不自由を強いること
になるのでしょうか。子や孫の負担で新庁舎を建てる計画である以上、できるだけ小さな庁舎にしようと願う
のは私だけでしょうか。

清水の将来を考えたら、縮小の時代に静岡と同じものではなく、静岡にないものが必要だとは思わないの
でしょうか。清水の中心に必要なのは無駄に大きな庁舎ではなく、清水の特性、海と港を生かした別のもの
ではないでしょうか。すでに決まったことだからといって、子供に苦勞を強いる親はいないと思います。開かれ
た場で未来志向の議論が進むことを望みます。